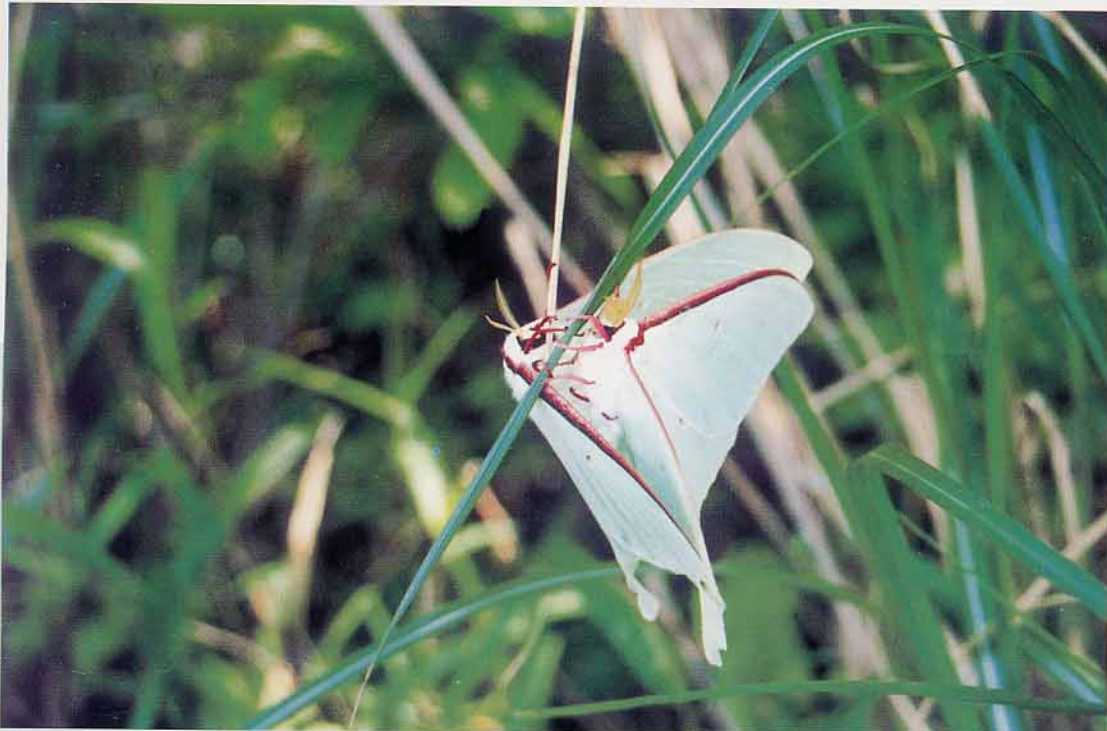


藤河内溪谷周辺地域の陸生昆虫

藤河内溪谷周辺地域の陸生昆虫

藤河内溪谷周辺地域の自然林はまだ若く、近年は国道10号線のバイパスをはじめ、藤河内と周辺集落を結ぶ道路網が舗装整備され、森林が全体に以前より乾燥気味でした。若い再生林には湿潤な朽ち木やキノコ類が著しく少なく、ゴミムシやキノコムシ及びハナカミキリムシなど、森林に特徴的な昆虫が極めて少ない。チョウ類ではゼフィルス類が見られず、一般に夏場の蜜源が少ないようです。また、生息昆虫は小型化と小型種化が感じられます。



抱擁するオオミズアオ

オキナワリチラシやリュウキュウルリボシカシカミキリの大分県初確認地だった^{たか}鷹^{とや}鳥屋山は1998年に伐採されたばかりであり、昆虫相は極めて稀薄でした。この地域の昆虫相が以前の姿を回復することはかなり難しく思われます。



民宿のカノコユリに吸蜜中のモンキアゲハ



タニウツギ花上のクスベニカミキリ



樹液を攝取中のクロコノマチョウ



交尾中のヨツモンカメムシ



草木の葉上に見られる南方系の
キガシラアオアトキリゴミムシ



子はやき
襲速紀系の標徴種とされている
オオダイセマダラコガネ



サクラやエノキの樹幹部に生息する
ヨコズナサシガメ



森林周辺部の植物葉上に見られる
クビアカサシガメ



農耕地帯から姿を消した
キイロサシガメ



地面や背の低い植物葉上に
生活するホソサシガメ